

囚人から宰相へ

創世記四一章 37～57節

ヨセフは長男をマナセと名付けて……「神は、私の労苦と父の家のことをすべて忘れさせてくださった。」また、……言った。

「神は、苦難の地で私に子孫を増やしてくださいました。」(51、52)

自分の見た夢を見事に解き明かしたヨセフに惚れ込んだファラオは、ヨセフを食料問題を担当する大臣に抜擢します。囚人から超大国エジプトの宰相に、これこそ夢のような出来事でした。エジプトの大臣として職務に励み、妻が与えられて幸せな家庭を築いたヨセフは、与えられた二人の子に万感の思いを込めて名を付けます。マナセとエフライムの名前の意味が今日の聖句です。多くの苦しみを経験した前半生でしたが、主が彼の人生を逆転してください、豊かな人生へと変えてくださったのです。長い苦しみの果てにこのように告白できたのは、神がヨセフを忘れることはなかったからです(三九23)。主が私たちの人生に関わり続けてくださるとき、苦しみはやがて喜びへと変えられます。ヨセフをこのように生かした神の大きな御手の中に、自らの人生を委ねようではありませんか。